



コロナ禍に生まれた、プライベート写真館

「haNgER(ハンガー)」代表
ナカムラタカコさん(小学6年生のママ)

”どうせ、私たちの代は
かわいそう。”

アパレル業界からスタイリストに転身し、12年前にフリーに。以来、テレビ番組やCMのコーディネートもさせていただいています。

転機が訪れたのは、去年の春のこと。小6の娘の友達が、ふと、「どうせ、私たちの代って、かわいそうだもん」と口にしたんです。はっとしました。コロナで世界は一変し、私自身、仕事が激減して「この先、どうなってしまうんだろ」と不安でたまらなくなりました。でも、子どもたちは運動会や修学旅行などのイベントが縮小中止となり、我慢を強いられています。一生に一度、今しかできない経験をするのができない……。

実は、以前から、スタイリストの経験を生かして子どもたちをプロデュースできたなら、と考えていました。だからこそ、「今だ！今、やらなきゃ！」ってほ勢い

で(笑)、子どもたちの門出をプロデュースするプライベート写真館「haNgER(ハンガー)」を始めたんです。

今しかない姿を最高の形で
残してあげたい

コンセプトは「遊び心をくすぐる」。プロのカメラマン、ヘアメイクアーティスト・スタイリストが、衣装や小物・ヘアメイクなどをコーディネートし、スタジオではなく開放的な口ケで撮影をします。衣装は、小学生向けには袴、未就学児など幼い子向けにはワンピースドレスを用意。デザインはどれも個性的です。

もちろん一人でもOKですが、お友達同士の記念写真にこだわっています。それは、園や学校で数年間を一緒に過ごした友達との思い出を残してあげたいから。これから先、進学や引越など別れてしまう日が来るかもしれない。だからこそ、大人になつた

きに「この頃、○○ちゃんと仲がよかったな」って思い返してもらえたらと思うんです。

個性的な衣装で友達とわいわい楽しく撮る写真は、まるで絵本やアート作品の1ページみたい。コロナ禍でこれまでのように過ごせないからこそ、子どもたちの愛くるしい「今」の思い出を最高の形で残してあげたい。「haNgER(ハンガー)」は、まだまだ始まったばかり。みなさんの意見を取り入れながら、たくさんの子どもたちやご家族を笑顔にできるように、頑張っていきたいですね。



▲小学生向けの撮影フォト。他の撮影フォトやプランなど詳細はP06をチェック!